

ストーマ周囲皮膚障害と術前・術後の検査データの関連

◆研究の目的と概要◆

当院では、人工肛門造設患者さんの術後の血液検査データが、ストーマ周囲皮膚障害の発生と関連しているのかについて調べています。本研究では、人工肛門造設後の栄養状態の変化を可視化し、術後の回復に影響する栄養の要因について明確にし、より良い看護介入を行うことを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2023年1月から、2024年12月までの間に、大腸がんで人工肛門を増設した患者。

◆研究に使用される情報・試料◆

データ収集項目

- 1) 傷病名（穿孔は除く）・TNM分類
- 2) 患者の基礎データ(年齢・性別・身長・体重・BMI・既往歴：糖尿病・高血圧・喫煙歴・ステロイド内服・抗癌剤投与の有無)
- 3) ストーマ周囲皮膚障害の有無
- 4) 検査データ

術前：血清アルブミン（Albumin：以下 Alb）、総たんぱく（Total Protein：以下 TP）、コリンエステラーゼ（cholinesterase：以下 ChE）

※術前は直近の検査データ、入院日データ

術後：血清アルブミン（Albumin：以下 Alb）、総たんぱく（Total Protein：以下 TP）、コリンエステラーゼ（cholinesterase：以下 ChE）

※術後、パスに沿った検査日のデータ（基本は術後1日目、3日目、5日目、7日目で見ていく）

- 5) 手術術式、手術時間、予定手術・緊急手術、ストーマ種類：結腸ストーマ、回腸ストーマ、単孔式、双孔式

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録（カルテ）等からの情報を利用します。

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

消化器外科科 研究責任者 吉田 恭巳

E-mail : kenkyu★kchnet.or.jp (臨床研究センター)

(★を@に変換して使用してください)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって「社会的に重要性が高い研究である」等の特段の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明